



梅島小だより

「あいさつ」で始まる一日

校長 近津 勉

毎朝、子ども達は元気に登校してきます。

私が校門の前で待っていたり、学校周辺の交差点などで子ども達の登校の様子を見守っていたりしていると、自分から「おはようございます」と大きな声で挨拶をしてくれる子もいます。中には、立ち止まって帽子をとり、深々とお辞儀をしながら挨拶をしてくれる子もいます。もちろん、こちらから「おはようございます。」と声をかければ、挨拶を返してくれるという子もいます。



梅島小学校に着任した4月、「この学校の子は、上手な挨拶ができる子が多いな。」と感じました。これは、とても素晴らしいことで、元気な挨拶ができることは、不審者を寄せ付けない一つの手段であるともいわれています。子ども達が元気な声で挨拶をしてくれると、こちらまで嬉しくなりますし、「今日も一日頑張ろう！」という気持ちになります。

しかし、こちらから声をかけても、挨拶が返ってこない時もあります。昨日は元気な挨拶ができたのに、今朝は小さな声で「おはようございます…」と言ってみたり、目を合わせるだけだったりする子もいます。そんな時は、「何か困ったことや心配なことでもあるのかなあ。」と想像してしまいます。



以前、私がまだ学級担任だった頃、当時の校長先生から、こう問われたことがあります。「近津先生、もし子どもが挨拶をしなかったら、どうしますか。」これに対して私は「子どもが挨拶をするまで、繰り返し指導します。」と答えました。すると、その校長先生は、「なるほど。ところで近津先生、挨拶は『するもの』ですか、『されるもの』ですか。」と聞かれ、続けて「挨拶は『するもの』ですよ。されることを期待して挨拶をするのではないはずです。こちらから挨拶をして、もし、挨拶が返ってこなかったら、『何か心配なことでもあるのだろうか』と想像してあげてください。」とおっしゃいました。

今、その言葉を思い出しながら子ども達を迎えています。子ども達の朝の声に、「この子は今日、どんな朝を迎えたのだろうか。」と想像しながら…。